中国地区英語教育学会研究紀要No.8（1978）

外国語学習におけるReading Processについて

広島大学大学院
竹　中　龍　範

1　はじめに

外国語学習における読解の指導ということを考えるとき，その理論的基礎として読解過程の研究が必要であろう。Rivers は，学習者が外国語で reading を行なうようになる時には読解過程というものが何を意味するものかすでに知っている，としている（①：215）。これは学習者が印刷されたパターンから3つのレベルの意味，すなわち，辞書的意味，構造的あるいは文法的意味，社会・文化的意味，を引き出すことをすでに習っている，ということである。この見方に従えば，これらの辞書的意味，構造的意味，社会・文化的意味を外国語のそれに置き換えれば，読解過程が習得ずみである以上，外国語における reading はできるようになる筈であるが，果たしてそうであろうか。寧ろ，それは最終的な目標であって，それに到るまでの発達的段階，あるいは移行段階が読解過程そのものにも考えられてよいであろう。そのような観点に立って，以下，外国語学習における読解過程に関わる問題を考察してみたい。

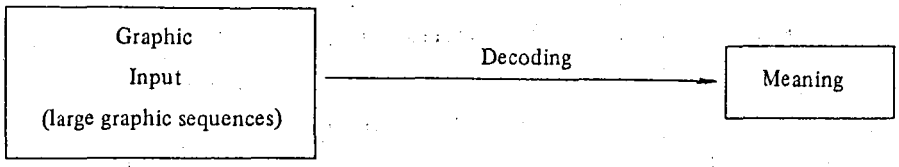
2　Reading Processのモデル

読解過程を図式化しようとしたものが，これまで幾つか示されてきたが，それらを検討する前に，読解過程との関わりにおいて reading の位置づけを再考してみる。

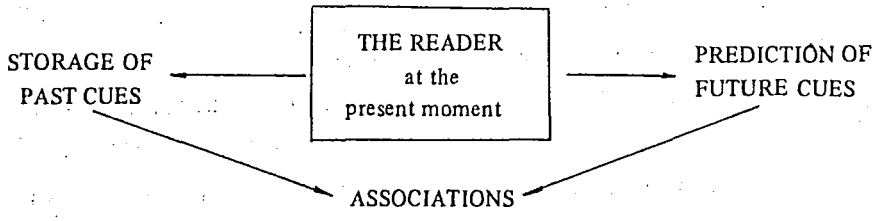
Goodman は reading を次のように定義している（②：22）。「Reading とは読み手（言語使用者）が書き手により文字表示として記号化されたメッセージをできる限り再構築していく心理言語学的過程である。」Yorio は Goodman の見方を「選択的過程」(selective process) として捉えている（③：108）。すなわち，読み手は，母国語の知識により，文字という手がかりを見つけ，それを統語論的，意味論的，音韻論的手がかりに関連づけ，その後これらの選択されたものが記号化され，短期記憶として貯えられ，それがテストされて，後に記号化され選択されたものと連合される，というものである。そのほか，reading を guessing game であるとするものなどがあるが，このような観点に立つ限りにおいては，reading は受身的技能とは言えないであろう。また，reading を受身的技能と呼ぶことは読解過程の観察を困難にするということを強調してきたが，読解過程の本質を考えてみると読み手は reading の当初から意味を付加する能力を獲得していることを要求され，この意味において reading は問題解決の行為である，とする Phillips も同様の観点に立つものと見做しうる（④：227－228）。Ingram and Elias に至っては reading は能動的過程であると主張している（⑤：64）。このように，reading は，listening についても近年受身的技能ではないと主張されているのと平行的に，受容的技能（コミュニケーションの re-

ceiver　として）であっても，受身的技能ではない，という見方が必要であろう。

このように reading の位置づけを捉えた上で，読解過程のモデルを検討してみることとする。まず，Palmer の第二次伝達回路のうち，the writing-reading circuit の B，すなわち the"receiver" の回路は読解過程を示すものと解釈されよう（⑥：334－338　）。これでは文字入力が記述視覚作用をひき起こし，それが記述視覚像を結び，さらに読み手がその文字体系およびそれに対する音価を知っていればその記述視覚像は聴覚像に転移し，概念に到って書き手の概念が伝達される，という解釈である。これは，口頭による伝達の過程を示す第一次伝達回路を基本とした，あるいは，それに優先的位置づけを与えた見方である。これに対し，Goodman は 3 つの熟達段階を設けて，第 2 熟達段階までは口頭言語の介在を認めているが，第 3 熟達段階においては



というように，その介在を認めていない（⑦：16－19）。そして，この第 3 熟達段階においては，文字による情報の処理スピードは話者により発せられる口頭言語のスピードに限定されないとしている。この Goodman の見方は reading を発達的側面から捉えたものであり，同様な観点に立つものとして Ingram and Elias が挙げられる（⑤：65）。これは，熟練した読み手は途中に Re-coding, Phonological Componentの介在を必要としないが，未熟な読み手はそれらを経由するというものである。一方，Yorio のモデルはこれらのモデルとは異なり，reading のある時点における読み手の行動あるいは操作を捉えたものであり，次のように図示される（③：111）。



これらのモデルを概観して言えることは，読解過程というものが決して一元的な捉え方のできないものであるということである。そのような点を踏まえて，次に読解過程に関わる要因を母国語における場合と外国語における場合とに分けて考察してみよう。

3　母国語における Reading Process

読解過程は，正書法や文法構造によるわずかの variation はあるが，いかなる言語においても同じであろう，と Goodman（②：27）は述べているが，言語使用者それぞれの母国語における読解過程は，前項におけるモデルの検討からも明らかなように，普遍的なものが求められ得るであろう。Goodman は，読み手は 3 つのキューの体系，すなわち文字・音韻的 (graphophonic) キュ

ー，統語論的キュー，意味論的キューの体系を同時に，且つ独立させて利用している，としているが（②：25）果たしてそのように言語学レベルだけで捉えられるようなものであろうか。Wardhaugh は，Bloomfield、Fries、Venezky, Chomsky and Halle の読解過程観を検討した後，これらの言語学的観点は読解過程の理解，読解指導に何らかの関連をもっているが，言語学以外の問題も考慮しなければならず，言語学者，心理学者，教育者の共同作業が必要であるとしている（⑧）。例えば，reading は認識，構造化，解釈という3種類の異なったスキルの間の複雑な相互作用を含む過程である，という捉え方をする Dakin においては（⑨：103），言語学視点のみによる読解過程の理解は不可能である。また，Ferguson は読解過程の2つのアスペクトとして，視覚的アスペクトと知的アスペクトを挙げているが（⑩：31－33），明らかに心理学的観点に立っており，そこに扱われている fixation pause, fixation span などの問題は言語学だけでは処理しえないものである。このように，読解過程の解明には，過程そのものの分析と同時にそれに関わる様々の要因の分析を行ない，それらの相互作用的総合体として読解過程を捉えることが必要である。さらに，その分析の結果として読解過程のモデルを図式化する場合においても，過程とそれに関わる要因とが，平面的にではなく，多次元的に示されるであろうことは言うまでもないが，一方ではコミュニケーション体系との関連においてその位置づけがなされねばならないであろう。

4　外国語における Reading Process

外国語における読解過程も，過程そのものは母国語におけるそれと同じものであろう。しかし，それに関わる要因は，母国語における場合と平行的に捉えうる要因と平行的には捉え得ない要因とに分けられる。前者に属するものとしては，当該外国語の言語知識，予測能力，memory span などが挙げられるが，それらはあくまで原理的なものであり，それが母国語における場合と同等のもの，あるいは同質なものとならなければ，それらは全て後者に属するものと見ることもできる。従って，Yorio の挙げている外国語学習の場合の新しい要因，すなわち，読み手の外国語の知識は母国語話者のそれとは違うこと，不完全な言語知識のために正しい手がかりを見つけるのに必要な予測能力が不充分なこと，手がかりを間違って選んだり，選んだものに対する不確かさのために連合が困難になること，教材に対する familiarity がないこと，などの諸点（③：108）は，前者に属するか後者に属するかというよりは，外国語学習における reading の発達的側面から捉えらるべきであろう。しかし，全てのレベル，全ての時において母国語の干渉がおこる，という点は純粋に後者に属するものと捉えられる。このように見てくると次のことが明らかになる。すなわち，外国語学習における reading の指導を考えるときに考慮しなければならない側面としては，発達段階的側面と母国語の干渉に関わる側面とがあるということである。当然，その両者を含む指導がなされねば，均衡のとれた reading 技能の発達は望むべくもないわけである。また，それに関連したその他の問題もこれらの諸側面との関係を配慮しつつ解決が求められねばならない。一例として，翻訳の問題を挙げてみると，King は，翻訳が早く導入されると reading の正しい習慣を発達させるのを妨げる危険性がある，と述べている（⑪：522）。

5 おわりに

このように読解過程の諸相を見てみると，reading の指導が決して listening における音声が文字に代わっただけのものではないことがわかる。同時に，reading の指導と言っても，黙読，音読，速読などの様々な問題があり，これらの位置づけ，指導の時期，指導の方法を考えるとき，読解過程との関連，あるいはその発達的側面との関連ということに対する配慮がなければならないということはすでに明らかである。例えば，音読にしても，それは Goodman の第3熟達段階に位置づけられるものであり，意味の理解の前に行なわれるのは発音練習にはなっても音読と呼べるものではない。読解過程の解明の困難さは屢々指摘されており，これに対する言語学，心理学等の共同作業が進められねばならないが，同時に，reading の指導もこれと平行して研究されねばならないであろう。

引用文献

① Rivers, Wilga M. (1968) *Teaching Foreign-Language Skills.* The University of Chicago Press.

② Goodman, Kenneth S. (1973) "Psycholinguistic Universals in the Reading Process," in Frank Smith (ed.), *Psycholinguistics and Reading*, 21-27. Holt, Rinehart and Winston, Inc.

③ Yorio, Carlos Alfredo (1971) "Some Sources of Reading Problems for Foreign-Language Learners," *LL*, 21, 1, 107-115.

④ Phillips, June K. (1975) "Second Language Reading: Teaching Decoding Skills," *FLA*, 8, 3, 227-232.

⑤ Ingram, D.E. and G.C. Elias (1974) "Bilingual Education and Reading," *RELC J*, 5, 1, 64-76.

⑥ Palmer, Harold E. (1924) *The Problem of English-Teaching in the Light of a New Theory. A Memorandum.*; page reference to the reprint in 語学教育研究所 (編)，『英語教授法事典』，321－370，開拓社，昭37.

⑦ Goodman, Kenneth S. (1973) "The Psycholinguistic Nature of the Reading Process," in Kenneth S. Goodman (ed.), *The Psycholinguistic Nature of the Reading Process*, 13-26. Wayne State University Press.

⑧ Wardhaugh, Ronald (1968) "Linguistic Insights into the Reading Process," *LL*, 18, 3 & 4, 234-252.

⑨ Dakin, Julian (1969) "The Teaching of Reading," in Hughes Fraser and W.R. O'Donnell (eds.), *Applied Linguistics and the Teaching of English*, 99-120. Longmans, Green and Co.

⑩ Ferguson, Nicolas (1973) "Some Aspects of the Reading Process," *ELTJ*, 28, 1, 29-34.

⑪ King, Harold V. (1947) "Foreign Language Reading as a Learning Activity," *MLJ*, 31, 8, 519-524.